# 金婚おめでとうございます

9月1日、結婚50周年の金婚夫婦を祝福する第58回金婚夫婦祝福式典（主催＝高知新聞社等）が県内6会場で開催され、604組が祝福されました。香美市からはグレース浜すし（南国市）で開催された式典に11組のご夫婦が出席し、祝福されました。

香美市の金婚夫婦

香美市のコーラスグループコキーズの合唱

記念品を受け取る三木高明・春代夫妻

祝舞

式典の様子

**金婚を迎えられたご夫婦**

■物部町
立花　盛男・美子

■香北町
北岡　登志廣・和子

■土佐山田町
小笠原　和雄・泰代
岡林　静窺・知恵子
黒石　弘信・伸子
島村　真裕・洋子
白川　文雄・ミヨ子
竹村　大・淑乃
谷渕　義一・みね子
近森　正臣・基子
戸嶋　守・周子
中谷　精二・德江
三木　高明・春代
吉本　幹章・一子

（敬称略・五十音順）



# 香美市文芸　風の流れ

◆一般投稿作品◆　広報委員会　選

秋晴や古里の空母の胸に　岡本　初美
苦瓜に触れ来し風の夜も匂ふ　竹村　咲子
気楽さに寂しさもあり夕端居　上池　児末
雨の中ウグイスホホジロきそい鳴く　五百蔵利美
長雨と日照りで草引き追ひつけず　有澤　春江
草刈りの鬼百合二本残しあり　岡田美代子
久々にカラリと乾き梅晴れ間　小原　子川
夕立のありたる庭の土香る　楮佐古きよ
病床に日を重ね来て夏越かな　都築　忠義
足元を照らし育ちぬ月今宵　森本　幸美
夏すみれはらりと風に揺れにけり　中村　紫乃
天の川に迫り一人の日本人　福留とものり
涼しげにふうせんかづらの白い花　三木　牧子
ビー玉を置けば転がる夏休み　森本　純喜
干し梅の四日四夜もころがしぬ　山﨑　寿美
銀杏を炒りて夜勤の子を待てり　山﨑　貴子
水止めて香りさわやか稲の花　山中　晶子
逃げ腰でねずみ花火の点火待つ　相澤　睦子

◆美良布俳句会◆

はるばるとよさこい祭に来て踊る　岡本かほる
ビンに浸け楊梅の紅楽しみぬ　明石ゆきゑ
原爆忌堰を外せば水走り　北村　幸子
卵焼きふわりと匂ふ今朝の秋　北村　里子
郭公や霧に埋まりし尾瀬の沼　小野川順子
夕立が欲しい野菜を見る農夫　前田　芳子
蜩の啼くを背に聞き膳作り　中内ゆかり
さやぐ葉に千切れまいと揺れ稲の花　竹内　ろ草

◆かがみ野俳句会◆

星祭り歌碑に零るる篝屑　佐竹　洋子
終戦日裸電球かがやけり　利根　弘子
つくおほし一途に啼くや日暮れ里　古川　信子
戦遠く思ひは近く墓洗ふ　山﨑　鈴子
浜の子は無口となりぬ盆の波　中澤　美晴

◆かほく俳句会◆

抱き起こす汗の背中や母病めり　乾　真紀子
忘却と云ふ涼しさを今知りぬ　奥宮さとみ
立秋や両手に掬ふ水の色　北山　高子
一個づつ希望を包む袋掛　久保内鏡子
盆用意老いても子には従はず　黒岩千英子
百めざす三兄弟や雲の峰　小松　隆之
楽しさに潜む悲しみ夏休み　小松　昇
恋の手を離し指差す合歓の花　杉山　春萌
蠅を打ち机を打ちて蠅を打つ　野村　里史
百薬を越へぬ酒酌み終戦日　前田　欣一
水音に沿へば青田に穂の溝へ　前田　智
八月や爪の先まで戦中派　間﨑　和代
炎天下壊さるる旧庁舎かな　宗石　愛喜
おだやかに風の八月十五日　森本　之子
花火終ふ真上の空へ白鳥座　山﨑かずみ
父母眠る碑に声かけて盆参り　山中　晶子
麦酒呑み普通に暮らす難しさ　山中　瑞輝
部屋毎に置く扇風機みな古りて　山中　明石

◆土佐山田町俳句会◆

五十雀小松左月の森の句碑　明石　韮生
道野辺の小流れに秋さりげなく　大石　邦男
籾擢りの指たくましく紐くくる　笹岡　英世
山峡のこだま重ねの大花火　森田　菊恵
青山河沈んだままの沈下橋　安丸　槇子
韮の花束ね答弁聴いている　前田美智子
米と塩進ぜ八月十五日　前田　小夜
折り鶴の千万匹や長崎忌　橋本　昭和
熊蝉さん午後はデートしているの　森田　貞男
炎天下老女と歩くフランスパン　西内　道彦
灼けし地に吊り降されし転居の荷　田村　一翠

**今月のキラリ**
**ビー玉を置けば転がる夏休み**

子どもの頃は夏になるとどの家も畳を上げて板の間だった。そこが夏休みの遊び場。「ビー玉を置けば転がる」は懐かしさと開放感。

**俳句・短歌の投稿方法**

▼投稿方法は自由。住所、氏名、電話番号を明記してください。
▼俳句は偶数月、短歌は奇数月に掲載します。掲載月の前月の1日までに投稿してください。
▼誌面の都合により掲載されない場合があります。なお、選者の添削を不要とする方は添削不要と記してください。

【投稿先】総務課内広報委員会事務局「俳句・短歌」係
〒782－8501（住所記載不要）FAX 53・5958